



平成28年8月21日(日)、ハッピーブルースカイプロジェクト2016が、倉敷市茶屋町地区にある創心会リハケアタウンにて開催されました。このイベントは、「障がいのある子どもたちに食育体験を行いたい」という想いに共感した医療・介護・農業・企業関係者が連携し、障がい児(者)とその家族だけでなく、健常児(者)、地域など幅広い層を対象としています。今回は餅つきと流しそうめん体験が行われ、当日は30名を超える方に参加をしていただきました。元気な子どもたちは、活気に溢れ、普段とは違う表情や、気づきが得られました。また、保護者の方々の悩み相談や情報交換の場にもなり、立場を理解し合える交流の場となりました。参加して下さった早島支援学校の進路指導担当である滝沢先生からは、「障がいを持つ子とその保護者の方が出かけられる場(機会)が少なく、家に閉じこもってしまうケースは多くあります。子どもが、地域の中で生きていく力をつけていくための支援を行うことが学校の役割であり、そんな視点から、このプロジェクトが、子ども同士、そのご家族、地域の方々が相互交流できる機会として意義のあることだと感じました。イベントを重ねることで、今後は地域の中での卒業生の姿が見られるようになればとも思います。」と感想を寄せてくださいました。次回は、秋に稲狩りイベントをする予定です。



平成28年7月30日(土)、創心会リハケアタウン 東館2階の大研修室にて、「親と子の茶屋町史」の作者、佐藤圭一先生の特別講演会が開催されました。当日は、暑い中にもかかわらず、152名もの方にご参加をいただきました。今回は、茶屋町史を学ぶということで、当日は創心会スタッフが茶屋町の鬼に変身して皆様をお出迎えいたしました。

佐藤先生は、倉敷市で39年間に渡って教職活動に従事されており、参加された方の中には、佐藤先生の元生徒さん達も多数出席してくだ

さいました。この特別講演会を通して、久しぶりに佐藤先生の生徒に戻って楽しく授業を受けていただける、そんな思い出に残るイベントになったのではないのでしょうか。また、講演会では沢山のスライドや佐藤先生のお話を通して、懐かしい茶屋町の風景や、初めて知る茶屋町の歴史に、参加された皆さんからは、驚きをはじめ、様々な感想が聞こえてきました。

講演会の最後には、「茶屋町博士認定テスト」があり、参加された皆さんは、楽しみながら挑戦してくださいました。今後もChayaの市実行委員会では、皆様と一緒に地域を盛り上げていけるよう活動して参ります。



包み込みの発想による協業作業

01

活動・参加への豊富なアプローチ — 創心会 リハビリ倶楽部® —

02

Happy Blue Sky Project 2016
多世代交流型の食育体験イベント開催!!

03

特別記念講演会
佐藤圭一先生「特別講演会」が盛大に開催!!

01

活動・参加への豊富なアプローチ

創心会 リハビリ倶楽部®



創

心会には、「目的・目標」志向の通所サービスが4タイプあります。

その内の一つ、「リハビリ倶楽部®」は活動・参加への豊富なアプローチを特色とした事業所です。ご利用者様の活動・参加状態を高める為のリハビリ提案や、介護状態の維持・改善を促します。

元気
デザイン
倶楽部リハビリ
倶楽部®百年煌
倶楽部五感
リハビリ
倶楽部

「希望」を「可能」に！自宅復帰困難を打破!!——

近頃は、在院日数制限などにより、退院後のセーフティネットや他職種連携の強化が一層求められています。

ご紹介する事例は、重度の右片麻痺を呈し、病院では「自宅復帰は困難ではないか」と考えられていたご利用者様が、ご家族様の協力と、リハビリ倶楽部®(デイサービス)・創心会訪問看護リハビリテーション(以下、訪看リハ)の連携により「在宅生活が可能」となったものです。

A様は、左被殻出血右片麻痺・失語症で、X病院にリハビリ目的で入院されていました。その後、本人の強い希望で自宅退院となり、同時に訪看リハ・デイサービスの利用となりました。

●自宅復帰が困難と思われた要因

- ①身体能力：ADL能力が低い（FIM:56点）
- ②自宅環境：車椅子生活不可
- ③モチベーション：リハ意欲が低い状態
- ④介護者：同居される奥様の介護負担が大きい

●短期目標：「ポータブルトイレへの移乗自立」、「短下肢装具の着脱自立」

●長期目標：「テレビの部屋まで妻の介助で歩いて行く」、「トイレ動作自立」、「家族との外出」



デイサービスの介入ポイント



A様と積極的なコミュニケーションを図り、関係性を築く。

手話の得意なスタッフは手話で、元気なスタッフはユニークな話をしたりして笑顔を引き出す。すると、A様の笑顔が増え、スタッフとの関係性の構築に繋がり、デイサービス利用を休まれることが少なくなった。



杖での移動練習(ADL)の実施

訪看リハでは十分な移動練習が行えない為、杖での移動練習はデイサービスで実施した。



他者との交流(IADL)

ある日、他のご利用者様から「A様と話してみたい」と提案が合い、筆談とジェスチャーで会話を行っていただいた。A様も笑顔で会話される。



活動意欲の向上

おやつ作り、折り紙、しめ縄作り、生け花等の行事に自ら参加される様になった。また、餅つき大会には、A様の奥様、娘様、お孫様にも一緒に参加していただいた。



介入経過(デイサービス／訪看リハ)の流れ

サービス
開始

帰宅願望が強く、リハビリに対して、意欲の低い状態。デイサービスに通い始めて1週間たった頃、訪看リハに伺うと、ベッドからなかなか起き上がられず、その後はデイサービスも休まれる状態が続いた。デイサービス管理者と訪看リハスタッフが訪問し、奥様を交え今後について話し合いを行った。

介入1ヵ月

奥様の心の変化が、A様の心を変化され、翌日から休まず、デイサービスに通われる。

介入2ヵ月

デイサービスでの移動練習に意欲的に参加される。
→4点杖歩行で歩行距離が伸ばせた。

介入3ヵ月

A様と他の利用者様・スタッフとの交流が増えた。
また、ご家族様と外出をされる。
→他利用者様と会話される。他利用者様に握手を求められ、交流が増える。
→家族との外出を楽しむ。

介入4ヵ月
～
5ヵ月

フロアから送迎車までの歩行と乗車。
→送迎の際は歩行し乗車されるようになる。奥様からテレビのある部屋まで歩いたとの報告がある。長期目標の一つを達成。

現在

目標を達成でき、困難と思われた自宅での生活を続けることができている。介助によりテレビの部屋まで杖で歩いていけるようになる。またポータブルトイレの移乗が自分ででき外出の機会も増えている。

考察・まとめ(振り返り)

今回の事例は、「適切な多職種連携(協働)」と「ご家族様の協力」で、A様の「自宅復帰」という強い希望が可能になった事例です。短期・長期目標への取組みがご家族様の介護負担軽減につながり、さらに事業所内でのサービスの連携と情報共有でA様の要望に柔軟に対応できたことにより、目標が達成されました。

ご利用者様は退院後在宅生活へ移行したとき、「病院ではできていたことが在宅ではできない」、「家族の間でも孤独感を感じる」など多くの障害を経験することがあります。これらの障害を越えて行くためにも、病院と介護事業所の連携を積極的に行うことは、大変重要であると考えます。

創心会リハビリ倶楽部®では、ご利用者様が住み慣れた地域でいつまでも主体的に生活を送って頂けるように、一年後、三年後を見つめたアセスメントを実施しています。そのため、主に在宅生活に必要な「日常生活動作(お風呂・トイレなど)の自立」に焦点を当て、それぞれの「活動」の状態に応じたサービス訓練計画を提案しています。

提供ポイント

- ①「心創り」で萎えた心を奮い立たせる支援
- ②「多職種のアセスメント」複雑な課題でも解決策を検討する
- ③「活動の向上」にADL・IADL訓練をアプローチ
- ④「居場所と出番」を創る参加支援